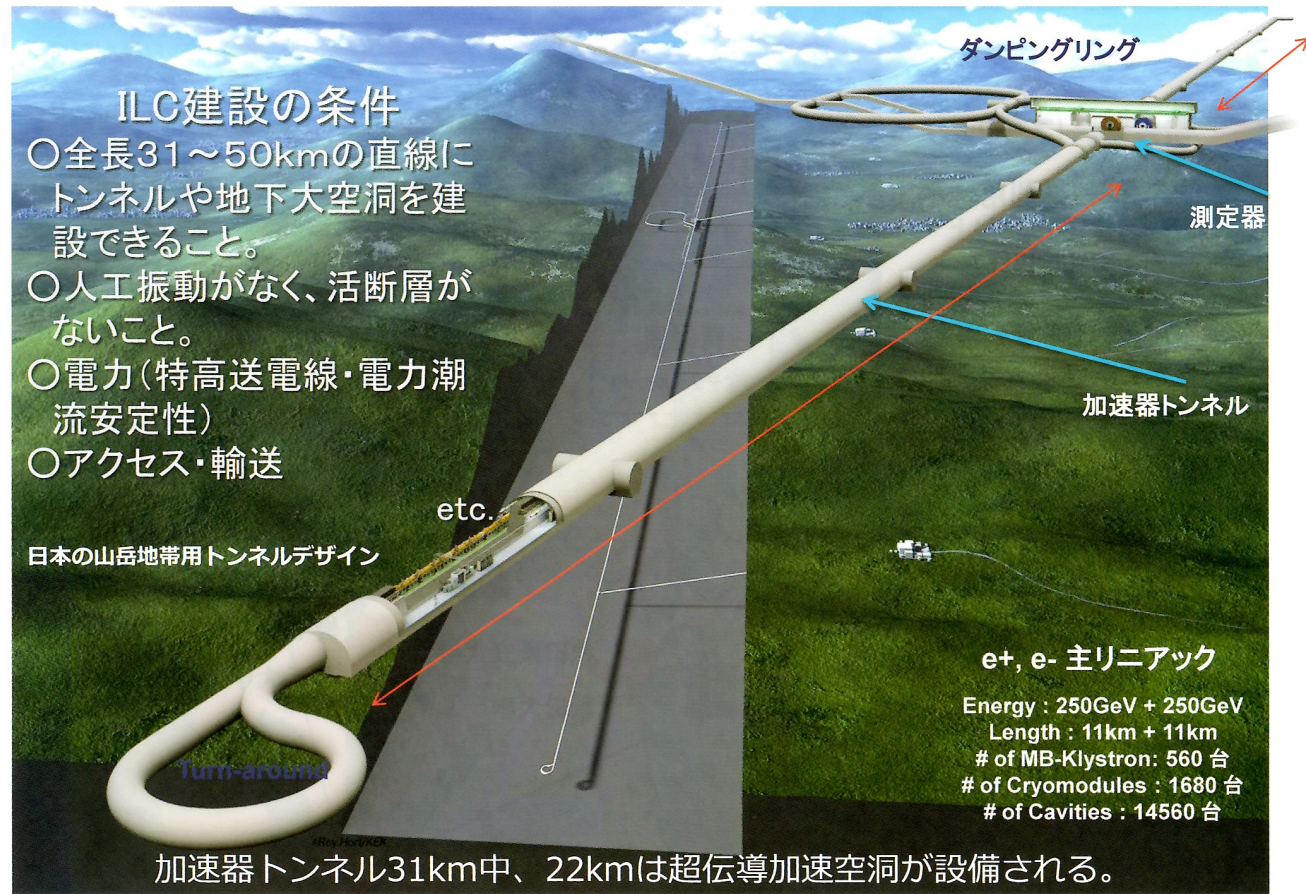
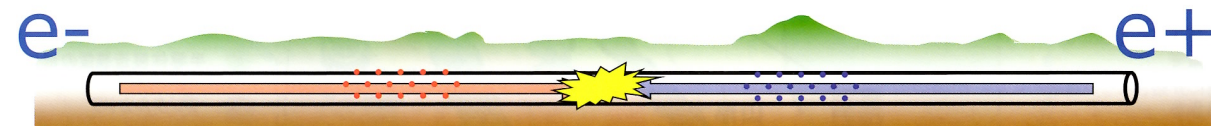


豊村てつや市議会レポート

ILC リニアコライダー加速器の鳥瞰図



まとめると・・・ILCとは



- ・ インターナショナル・リニア・コライダー (International Linear Collider、略称: ILC) とは、全長31~50kmの地下100mの直線トンネルに建設される加速器を中心とした大規模研究施設
 - ・ 世界中の研究者が協力して、「世界に一つだけ」建設しようという計画
 - ・ リニアは直線、コライダーは衝突加速器
 - ・ トンネルの一方から電子(e-)を、もう一方から陽電子(e+)を、直線の加速器でほぼ光の速度まで加速。真ん中で衝突させ、「宇宙誕生=ビッグバン」直後の高エネルギー状態を再現
 - ・ その瞬間に発生する素粒子等を観察することで、質量の起源や時空構造、宇宙誕生の謎について研究
 - ・ 建設費8300億円と試算
- これ以上分割できない粒子

※当レポートは政務活動費により作成しています。

国際リニアコライダー《ILC》 北上山地が国内候補地に決定

～盛岡市議会 ILC 特別委員会、盛岡市 ILC 推進事務局を設置～

国内の研究者でつくる「ILC立地評価会議」が昨年8月に国内候補地を北上山地に決定したことを受けて、その翌月、盛岡市議会では「ILC誘致及び国際都市づくり調査特別委員会」を設置し、調査活動を開始しました。

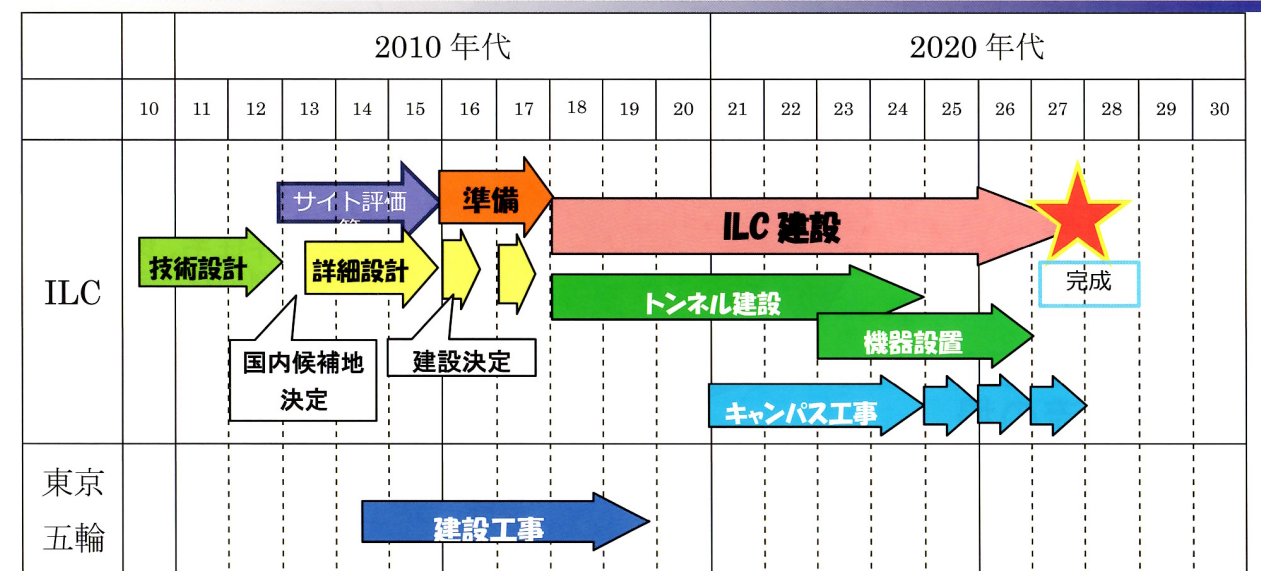
また、盛岡市も平成26年度にILC推進事務局を新設し、外国人研究者とその家族の受け入れ態勢や国際的なまちづくりの調査、検討を部局横断で進めることとなりました。

新年度予算には、ILC誘致影響調査業務委託費として6百万円を計上しており、経済的な波及効果などの調査を専門のシンクタンクに委託して、新たな関連産業の創出、ILC研究機関と岩手大との連携などの検討も行っていきます。

ILCは1兆円近い建設費を必要とする巨大プロジェクトのため、国が誘致を正式決定するまでは、まだ時間を要する見通しにあることから、今後の国との折衝に当たっては、盛岡市は岩手県とともに県内の首長や宮城県、仙台市と連携して誘致活動を進める必要があります。

国の正式決定がまだ見通せない状況にはありますが、日本をリードする人材をつくる、という気概を持って時間のかかる人材育成や国際地域づくりに取り組むことで、候補地としての本気度を見せていくことが何にも増して重要と思われます。

ILC計画の想定スケジュール



ILCを核とした東北の将来ビジョン

1 東北の復興と再生の原動力

■産業振興とイノベーション

- ① 4.3兆円の生産誘発額
- ② イノベーション
- ③ 先端科学技術集積地域としての新たな「東北ブランド」の形成

■雇用創出・人材育成

- ① 25万人の雇用創出
- ② 高度産業人材の育成

■地域振興

- ① 人口流出傾向への歯止め
- ② 真の国際性の涵養
- ③ 科学技術教育水準の向上
- ④ 東北サイエンスツーリズム
- ⑤ 東北イノベーションコリドー

2 日本再生、国際プレゼンス向上

3 アジア、世界の基礎科学、産業力に貢献

国際化に向けた課題

